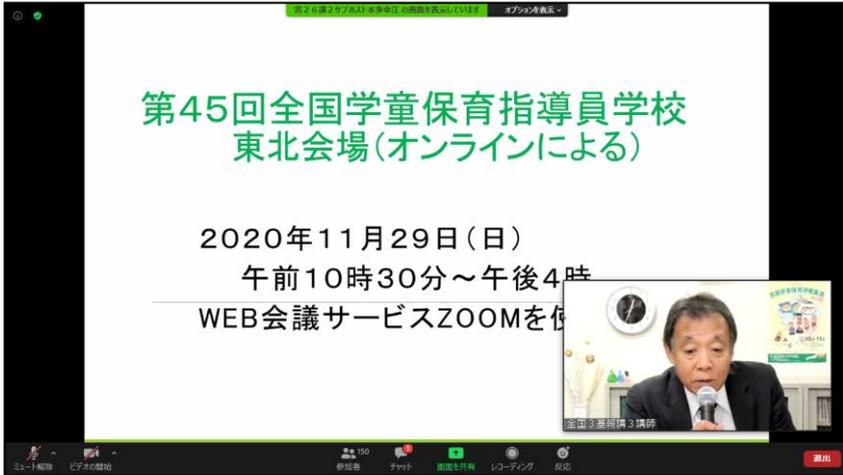


全国指導員学校東北会場



全国連協がホストになりオンライン形式開催された全国学童保育指導員学校東北会場。右下は千葉智生全国連協事務局次長

多職種との連携学ぶ

オンラインで800人が参加

全国学童保育連絡協議会と東北の各県学童保育連絡協議会が主催する第45回全国学童保育指導員学校は11月29日にZOOMを使ったオンライン形式で開催されました。東北を中心に指導員等約800人が参加。岩手県からは253人が参加しました。

講義前には千葉智生全国連協事務局次長が基調報告を行い、省令基準で示された施設の広さ、集団の規模が実現されていない現状があることを指摘。「学校一斉休業により、学童保育は社会機能を維持するために必要な施設である認識が広まった一方、制度の脆弱性が明らかにになった」と述べ、

学童保育のより一層の拡充を呼びかけました。全体講義では青森中央短期大学の松浦淳准教授が「学童保育と多職種連携」について講演。松浦准教授は「連携とは対等な立場で、同じ目的を持ち、協力し合いながら各自の役割を遂行すること」と述べ、連携の具体的方法や各自の役割について解説しました。多職種連携の先にあるものとして「今は子どもも、親も、指導員もお互いに多様化している。子どもたちが成長し、社会の担い手となるよう多職種連携を理解し、実践してほしい。連携の輪が広がることで、色んな子どもが育っていく」とその意義を語りました。

午後からは「学童保育とのおやつ」「傷ついた心のケア」「学童保育で大切にしたいこと」の3講座が開かれ、参加者はそれぞれのテーマで専門知識を深めました。



岩手県学童保育連絡協議会
〒020-0122
盛岡市みちけ3-38-20
岩手県青少年会館内
Tel・Fax 019-681-0651

学童運営に不安の声

岩手県学童保育連絡協議会は9月に「コロナ禍と学童保育に関するアンケート」を行い、会員79クラブ

中64クラブが回答しました。(集計結果は各クラブに送付予定)
3月の全国一斉臨時休校

県連「コロナ禍アンケート」

に関して、全体の53%にあたる34クラブが「急な決定で職員の確保が困難だった」と回答。指導員の長時

間勤務で乗り切ったケースも報告されました。他に「消毒液、マスク、体温計等の不足」「施設の広さが十分でなく密が避けられない」と

の回答も多数あり、感染対策を講じたとしても困難な状況にあったことが分かりました。



盛岡市の会場。密を避けるため会場を調整し、少人数で行われた

全国指導員学校は今年度全国10会場で開催予定でしたが、コロナウイルス拡大防止の観点から8会場が中止。全国的に研修等の開催が困難になる中、「何らかの方法で学ぶ場を持ちたい」との声が全国連協に多く寄せられ、初の試みとして東北、南関東の2会場で開催しました。岩手県では各地域連協が窓口となり少人数で開催できるよう会場を調整、コロナウイルス感染防止対策を実施した上で開催しました。

また、運営については「保護者会行事や会議を開けず、話し合いが持たない」「コロナによる予定外支出で予算が不安」「学童保育や保護者会への理解が進まない」などの声が寄せられ、運営面にも影響が及んでいることが分かりました。9月時点での現状については、「学童内で感染者がでたら不安」「マスクの着用を嫌がる子がいる」「消毒等の負担が増えた」など対応に苦慮する状況が浮かび上がりました。

県内では11月以降、新型コロナウイルスの感染が急拡大し、不安な日々が続いています。県連協ではアンケートで寄せられた声を踏まえながら、今後の対応を検討していきます。引き続き県内の学童保育の現状把握に努めていきます。